# SCSI アレイコントローラカード

# 取扱説明書（追補版）

| | |
|---|---|
| **PG-140BL** | **GP5-150** |
| **PG-140C** | **GP5-1501** |
| **PG-140CL** | **GP5-151** |
| **PG-141B** | |
| **PG-142B** | |
| **PG-142C** | |
| **PG-142D** | |

# はじめに

本製品をLinuxでご使用される場合は以下に示す内容を添付の取扱説明書と読み替えてご使用ください。

Microsoft、Windows NT、Windows 2000は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Netwareは米国Novell社の登録商標です。

Copyright© 1985-2001 Microsoft Corporation. All rights reserved.
All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2001

# 第 1 章　本製品の特徴(製品概要)

本章では、ディスクアレイの概要および本製品の特徴について説明します。

## 1.1　SCSI アレイコントローラカード

本書で説明する SCSI アレイコントローラカードの種類とその特徴を以下に示します。

表 1-1　製品仕様

| 型 名 | SCSI 仕様 | バッテリ* | キャッシュサイズ* | サポート OS |
|---|---|---|---|---|
| PG-140BL | 0 チャネル<br>Ultra160 対応 | 無 | 32MB | Windows 2000<br>Windows 2003<br>Linux ※ |
| PG-140C | 0 チャネル<br>Ultra320 対応 | 無 | 32MB | Windows 2000<br>Linux ※ |
| PG-141B | 1 チャネル<br>Ultra160 対応 | 無 | 32MB | Windows NT4.0SP6A<br>Windows 2000<br>Windows 2003<br>NetWare 5.1J<br>Linux ※ |
| PG-142B | 2 チャネル<br>Ultra160 対応 | 無 | 64MB | Windows NT4.0SP6A<br>Windows 2000<br>Windows 2003<br>NetWare 5.1J<br>Linux ※ |
| PG-142C | 2 チャネル<br>Ultra160 対応 | 有 | 64MB | Windows NT4.0SP6A<br>Windows 2000<br>Windows 2003<br>NetWare 5.1J<br>Linux ※ |
| PG-142D | 2 チャネル<br>Ultra160 対応 | 無 | 32MB | Windows 2000<br>Windows 2003<br>Linux ※ |
| GP5-150 | 2 チャネル<br>Ultra160 対応 | 無 | 64MB | Windows NT4.0SP6A<br>Windows 2000<br>Windows 2003<br>NetWare 5.1J<br>Linux ※ |
| GP5-1501 | 2 チャネル<br>Ultra160 対応 | 有 | 64MB | Windows NT4.0SP6A<br>Windows 2000<br>Windows 2003<br>NetWare 5.1J<br>Linux ※ |
| GP5-151 | 1 チャネル<br>Ultra160 対応 | 無 | 32MB | Windows 2000<br>Windows 2003<br>Linux ※ |

**※サポートするLinuxOSの詳細は本体マニュアルまたは以下のURLを参照してください。**
**http://www.fmworld.net/biz/primergy/linux/support.html**

## 5.2　Storage Manager の実行

### 5.2.1　メニュー構成

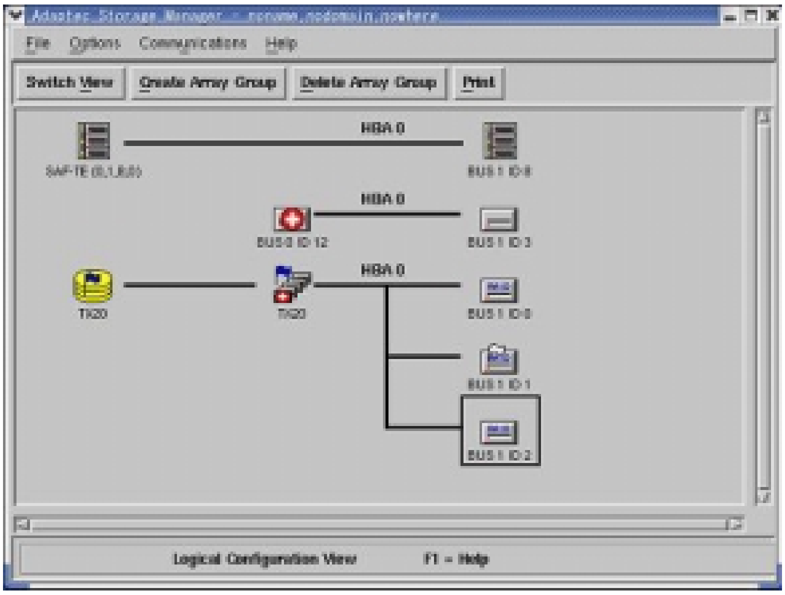
Storage Manager のメニューには以下の機能があります。

| メニュー | 機能 |
|---|---|
| File | |
| Read System Configuration | 現在のハードウェア構成をコントローラから読み取ります。保存されていない変更内容は失われます。Storage Manager の起動時にもこの処理が自動的に実行されます。 |
| Set System Configuration | アレイの構成の変更内容が保存されます。作成または変更されたアレイがある場合は、コントローラによる新しいアレイの初期化処理を開始します。 |
| Load Configuration File | ファイルに保存されている構成を Storage Manager に読み込みます。（本機能はサポートしておりません。） |
| Save Configuration File | 現在の構成または変更内容をファイルに保存します。（本機能はサポートしておりません。） |
| Printer Setup**※1** | プリンタの設定を行います。 |
| Exit Adaptec Storage Manager | Storage Manager を終了します。 |
| Options | |
| Background Task Settings | バックグランドジョブの優先度を設定します。(『5.8.7 Background Task Priority』参照) |
| Event Broadcast Control | 通知するイベントレベルなどを設定します。(『5.9.2 イベント通知』参照) |
| Turn Off Audible Alarms | 本製品に搭載されているブザーを停止します。(『5.8.6 音声アラーム』参照) |
| Communications | |
| Make Connection | ネットワーク経由で Storage Manager を実行します。(『5.10.3 サーバとクライアントの接続』参照) |
| Disconnect | リモート接続を解除します。(『5.10.3 サーバとクライアントの接続』参照) |

**※1：Linux では表示されません。**

## 5.4　Logical Configuration View

Logical Configuration View ウィンドウの右側には、アレイコントローラに接続されているすべての機器が表示されます。ウィンドウの左側には、各機器に対応する論理ドライブの情報が表示されます。



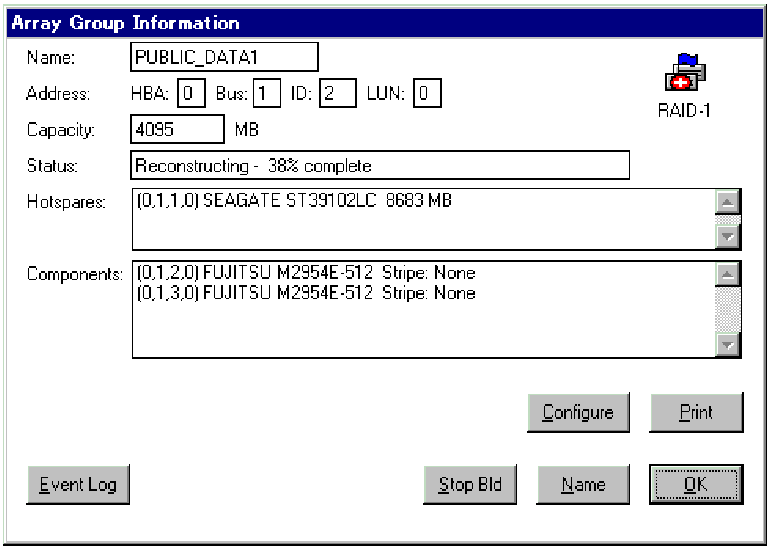

ここでは、以下の機能が使用できます。

| ボタン | 機能 |
|---|---|
| Switch View | Physical Configuration View ウィンドウと Logical Configuration View ウィンドウを切り替えることができます。 |
| Create Array Group | ディスクアレイを作成します。(『5.6.1 アレイグループの作成』参照) |
| Expand Array Group **※1** | ディスクアレイの容量を拡張します。(『5.6.3 容量の拡張』参照) |
| Delete Array Group | ディスクアレイを削除します。(『5.6.2 アレイグループの削除』参照) |
| Print | 構成情報を印刷します。 |

**※1：Linux では「Expand Array Group」ボタンは表示されません。**

### 5.5.2　アレイに関する情報

Logical Configuration View ウィンドウでアレイグループのアイコンをダブルクリックすると、Array Group Information ウィンドウが表示されます。マルチレベル RAID の構成要素であるアレイの Information ウィンドウを表示するには、それらのアレイのアイコンをダブルクリックします。

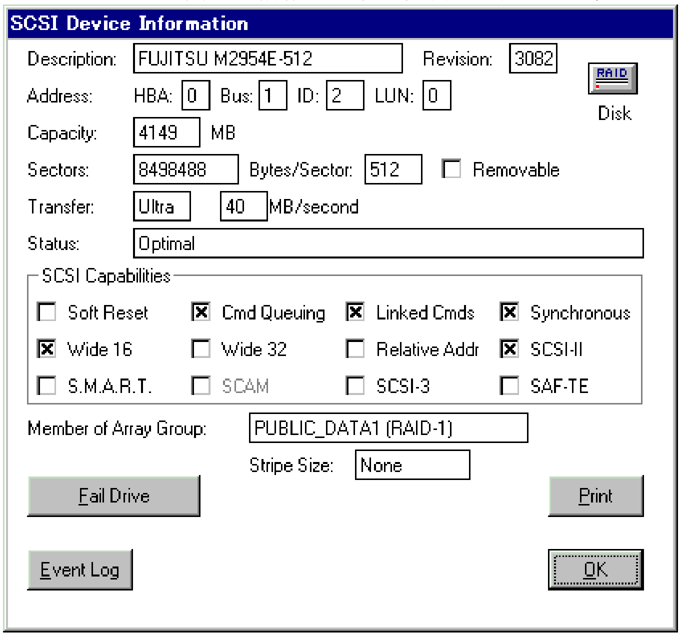



アレイに対し、以下のコマンドを実行することができます。なお、アレイの現在の構成や状態により、表示されるボタンが異なります。

| ボタン | 機能 |
|---|---|
| Configure | 設定確認および設定変更を行います。(『5.8.1 Host Bus Adapter の構成』参照) |
| Event Log | 発生したイベント一覧を表示します。(『5.9.1 イベントロギング』参照) |
| Verify | アレイグループのベリファイを実行します。(『5.6.5 ベリファイ』参照) |
| Name | アレイグループに名前を付けます。(『5.6.6 アレイグループの命名』参照) |
| Rebuild | アレイのリビルドを実行します。<br>故障したハードディスクを含む冗長アレイで、ホットスペアがない場合に表示されます。(『5.6.4 アレイのリビルド』参照) |
| Build | 初期化待機中のアレイに対し、初期化を実行します。<br>初期化待機中のアレイの場合に表示されます。 |
| Stop Bld | アレイの初期化またはリビルドを中断します。<br>初期化中、リビルド中のアレイの場合に表示されます。 |
| Stop Vfy | ベリファイを中断します。<br>ベリファイを実行しているアレイの場合に表示されます。 |
| Print | 表示されている情報を印刷します。 |
| OK | ウィンドウを閉じます。 |
| I/O Stats | I/O 統計情報を表示します。(『5.8.8 I/O 統計』参照) |
| Segments | 外付けデバイスの情報を表示します。 |

### 5.5.3　SCSI 機器に関する情報

ハードディスクや SAF-TE に関する情報の表示や、設定を行います。




ハードディスクに対し、以下のコマンドを実行することができます。なお、ハードディスクの構成や状態により、表示されるボタンが異なります。

| ボタン | 機能 |
|---|---|
| Configure | キャッシュの設定確認および設定変更を行います。(『5.8.5 アレイおよびハードディスクのキャッシュ設定』参照) |
| Event Log | 発生したイベント一覧を表示します。(『5.9.1 イベントロギング』参照) |
| I/O Stats | I/O 統計情報を表示します。(『5.8.8 I/O 統計』参照) |
| Format | ハードディスクをローレベルフォーマットします。(『5.7.3 ハードディスクのローレベルフォーマット』参照) |
| Make Hotspare | ホットスペアを設定します。(『5.7.1 ホットスペア』参照) |
| Remove Hotspare | ホットスペアを解除します。(『5.7.1 ホットスペア』参照) |
| Redirect | ハードディスクの Bus/ID のリダイレクトを行います。(『5.7.2 リダイレクト』参照) |
| Fail Drive　**※1** | アレイを構成するハードディスクを強制的に切り離します。 |
| Print | 表示されている情報を印刷します。 |
| OK | ウィンドウを閉じます。 |
| Configure JBOD | JBOD を設定します。(『5.7.5 JBOD』参照) |

**※1：「Fail Drive」ボタンは担当保守員に指示されるような特別な場合以外は、使用しないでください。**

### 5.6.3　**容量の拡張(エクスパンド)**

システム稼動中に、RAID 0 アレイまたは RAID 5 アレイに 1 台または複数のハードディスクを追加して、ストレージ容量を増やすことができます。ハードディスクが追加されると、コントローラはデータをアレイに配置し直します。このとき、LSU の最後に空き容量が追加され、Windows NT または Windows 2000 で認識される論理ドライブのサイズが増えます。
容量を拡張した後、Windows NT4.0 または Windows 2000 のディスクアドミニストレータを使用してアレイのボリュームセットに空き容量を追加し、システムをシャットダウンして再起動します。

☞ **容量の拡張は、NTFS を使用する Windows NT4.0 または Windows 2000 で動作するアレイに対してのみ使用できます。Windows の FAT および Netware、Linux では使用できません。**

### 5.7.5　JBOD (Just Bunch of Disks)

**本製品では、本機能はサポートしておりません。**

JBOD はディスクの容量が異なる場合でも容量を無駄にすることなく単一の仮想ディスクを作成することができます。
RAID0 に似ていますが JBOD はパリティなどの冗長化コードがないため耐障害性に乏しく、性能面においても基本的に 1 台ずつ読み書きするため向上は望めません。

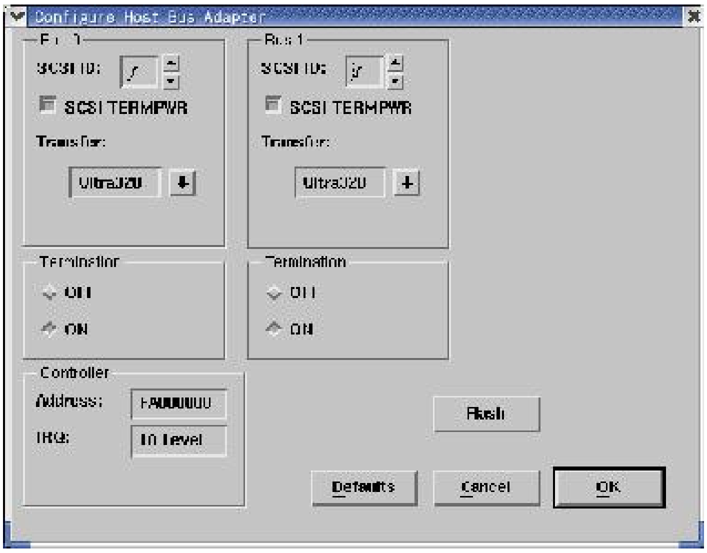
JBOD の設定および解除は、SCSI Device Information ウィンドウから実行することができます。

| ボタン | 機能 |
|---|---|
| Configure JBOD | ハードディスクを JBOD に設定する。 |
| Unconfigure JBOD | 既存の JBOD を解除する。 |

## 5.8　その他の操作

### 5.8.1　Host Bus Adapter の構成

アレイコントローラのハードウェアパラメータを変更するには、Host Bus Adapter Info ウィンドウの「Configure」ボタンをクリックします。



ここでは、以下の機能が使用できます。

**※ 機能の設定は変更しないでください。**

| 項目 | 機能 |
|---|---|
| Flash | コントローラのファームウェアとBIOSを更新するための Flash Configuration ダイアログボックスを表示します。(『5.8.2 フラッシュの構成』参照) |
| Caching **※1** | コントローラのキャッシュパラメータを選択します。(『5.8.4 Windows NT/2000 のコントローラキャッシュの設定』) |
| Defaults | コントローラの設定を初期値に戻します。 |
| Cancel | 変更を取り消し、元のウィンドウに戻ります。 |
| SCSI ID | コントローラの SCSI ID です。工場出荷時には 7 に設定されています。この設定は、変更しないでください。 |
| SCSI TERMPWR | 工場出荷時にはSCSIケーブルのTERMPWRラインを通じて終端電力を供給する設定になっています。この設定は変更しないでください。 |
| Transfer | 最大 SCSI 転送速度です。アレイコントローラは、電源投入時またはリセット時に、各 SCSI 機器と自動的にネゴシエートし、最大 SCSI 転送速度を設定します。工場出荷時には Ultra3 に設定されています。この設定は変更しないでください。 |
| Termination | このパラメータは、コントローラの SCSI ターミネーションを設定します。初期値は Auto です。この設定は変更しないでください。 |
| Address、IRQ | ホストBIOSによって割り当てられたコントローラのメモリアドレスと IRQ の値が表示されます。これらの値は変更できません。 |

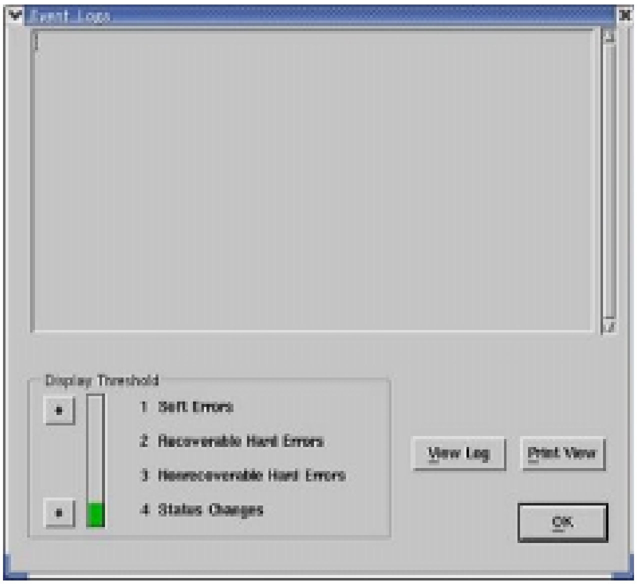
**※1：Linux では「Caching」ボタンは表示されません。**

# 5.9　イベント

## 5.9.1　イベントロギング

**本製品では、本機能はサポートしておりません。**

イベントログの内容を表示するには、コントローラ、ハードディスクまたはアレイのInformation ウィンドウの「Event Log」をクリックします。Event Logs ウィンドウが表示され、特定レベル以上(初期値はレベル 4)のイベントのみ表示されます。

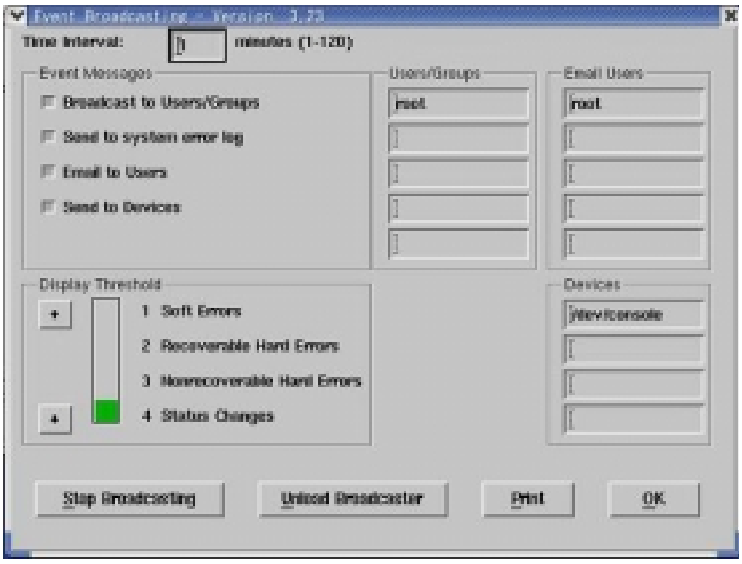



| ボタン | 機能 |
|---|---|
| ↑↓ | Display Threshold のレベルを調整できます。 |
| View Log | 選択したレベルのイベントメッセージを表示できます。 |
| Print **※1** | イベントログ一覧に現在表示されているイベントメッセージを印刷できます。特定のメッセージを印刷する場合は、そのメッセージが表示されるまで一覧をスクロールさせてから、「Print」ボタンをクリックします。 |

**※1：Linux では「Print View」と表示されます。**

### 5.9.2　イベント通知

Broadcaster を使用すると、Storage Manager を使用してイベントメッセージを電子メールでユーザ、グループおよび機器に送信することができます。また、アプリケーションログや Storage Manager のログファイルに保存することができます。「Options」メニューから「Event Broadcast Control」を選択すると、Event Broadcasting ダイアログボックスが表示されます。Event Broadcasting ダイアログボックスのオプションは、お使いのオペレーティングシステムによって異なる場合があります。



ここでは、以下のような機能が使用できます。

| 項目 | 機能 |
|---|---|
| Stop Broadcasting | 指定された場所またはアドレスへのイベントメッセージの送信を中止します。 |
| Start Broadcasting | 指定された場所またはアドレスへのイベントメッセージの送信を開始します。 |
| Unload Broadcaster | Broadcaster サービスを削除します。 |
| Time Interval | キャッシュが搭載されたすべてのコントローラのイベントログを Broadcaster が読み取る時間間隔を指定します。イベントメッセージが新しく生成されると、Display Threshold の設定に従って、指定された各宛先に通知されます。 |
| Broadcast to Computer(s) **※1** | イベントメッセージを Computer Names 一覧の各システムに送信する場合は、このオプションを有効にします。 |
| Send to system error log | システムへエラーログを通知します。 |
| Local Desktop Message **※2** | イベントメッセージをローカル システムのデスクトップに表示させる場合は、このオプションを有効にします。 |
| Email to Users | イベントメッセージを Email Users 一覧の各電子メールアドレスにメール送信する場合は、このオプションを有効にします。 |
| Log to Event Viewer **※2** | イベントメッセージが Windows NT/2000 のイベントログに記録します。このオプションは必ず有効にしてください。 |
| Event Logs **※2** | イベントメッセージをログファイルに記録します。このオプションは必ず有効にしてください。 |
| Computer Names/Email Users **※3** | コンピュータシステムや電子メールアドレスを指定します。 |
| Display Threshold | 矢印ボタンをクリックし、レポートされるイベントのレベルを設定するしきい値にインジケータを合わせます。選択された値と同レベルの、すべてのイベントのメッセージが通知されます。 |

**※1：Linux では「Broadcast to Users/Groups」と表示されます。**
**※2：Linux では表示されません。**
**※3：Linux では Users/Groups,Email Users,Devices と表示されます。**

# はじめに

当追補版は Linux OS をサポートする場合の情報を追加しております。
本製品を Linux でご使用される場合は以下に示す内容を添付の取扱説明書と読み替えてご使用ください。

Microsoft、Windows NT、Windows 2000は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Netwareは米国Novell社の登録商標です。

Copyright© 1985-2001 Microsoft Corporation. All rights reserved.
All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2001

# 第 1 章　本製品の特徴(製品概要)

本章では、ディスクアレイの概要および本製品の特徴について説明します。

## 1.1　SCSI アレイコントローラカード

本書で説明する SCSI アレイコントローラカードの種類とその特徴を以下に示します。

表 1-1　製品仕様

| 型 名 | SCSI 仕様 | バッテリ* | キャッシュサイズ* | サポート OS |
|---|---|---|---|---|
| PG-140BL | 0 チャネル<br>Ultra160 対応 | 無 | 32MB | Windows 2000<br>Windows 2003<br>Linux ※ |
| PG-140C | 0 チャネル<br>Ultra320 対応 | 無 | 32MB | Windows 2000<br>Linux ※ |
| PG-141B | 1 チャネル<br>Ultra160 対応 | 無 | 32MB | Windows NT4.0SP6A<br>Windows 2000<br>Windows 2003<br>NetWare 5.1J<br>Linux ※ |
| PG-142B | 2 チャネル<br>Ultra160 対応 | 無 | 64MB | Windows NT4.0SP6A<br>Windows 2000<br>Windows 2003<br>NetWare 5.1J<br>Linux ※ |
| PG-142C | 2 チャネル<br>Ultra160 対応 | 有 | 64MB | Windows NT4.0SP6A<br>Windows 2000<br>Windows 2003<br>NetWare 5.1J<br>Linux ※ |
| PG-142D | 2 チャネル<br>Ultra160 対応 | 無 | 32MB | Windows 2000<br>Windows 2003<br>Linux ※ |
| GP5-150 | 2 チャネル<br>Ultra160 対応 | 無 | 64MB | Windows NT4.0SP6A<br>Windows 2000<br>Windows 2003<br>NetWare 5.1J<br>Linux ※ |
| GP5-1501 | 2 チャネル<br>Ultra160 対応 | 有 | 64MB | Windows NT4.0SP6A<br>Windows 2000<br>Windows 2003<br>NetWare 5.1J<br>Linux ※ |
| GP5-151 | 1 チャネル<br>Ultra160 対応 | 無 | 32MB | Windows 2000<br>Windows 2003<br>Linux ※ |

**※サポートするLinuxOSの詳細は本体マニュアルまたは以下のURLを参照してください。**
**http://www.fmworld.net/biz/primergy/linux/support.html**

## 5.2　Storage Manager の実行

### 5.2.1　メニュー構成

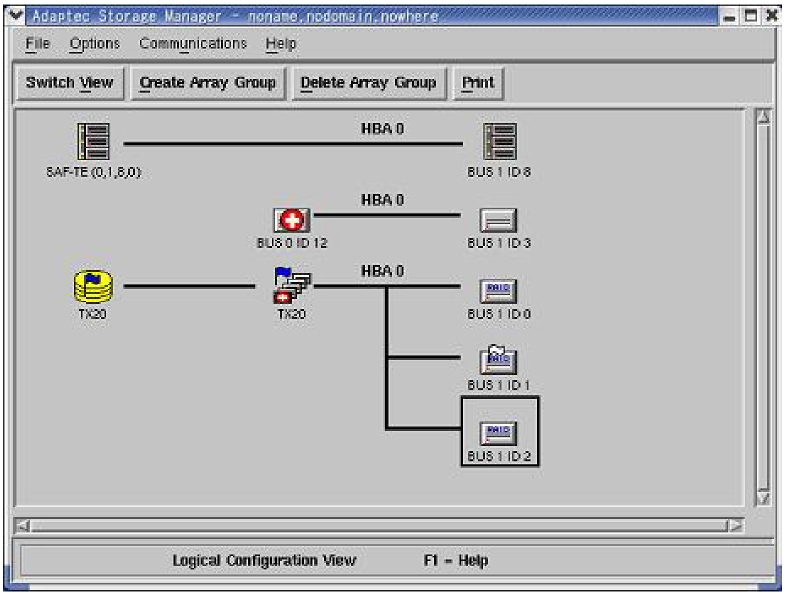
Storage Manager のメニューには以下の機能があります。

| メニュー | 機能 |
|---|---|
| File | |
| Read System Configuration | 現在のハードウェア構成をコントローラから読み取ります。保存されていない変更内容は失われます。Storage Manager の起動時にもこの処理が自動的に実行されます。 |
| Set System Configuration | アレイの構成の変更内容が保存されます。作成または変更されたアレイがある場合は、コントローラによる新しいアレイの初期化処理を開始します。 |
| Load Configuration File | ファイルに保存されている構成を Storage Manager に読み込みます。（本機能はサポートしておりません。） |
| Save Configuration File | 現在の構成または変更内容をファイルに保存します。（本機能はサポートしておりません。） |
| Printer Setup**※1** | プリンタの設定を行います。 |
| Exit Adaptec Storage Manager | Storage Manager を終了します。 |
| Options | |
| Background Task Settings | バックグランドジョブの優先度を設定します。(『5.8.7 Background Task Priority』参照) |
| Event Broadcast Control | 通知するイベントレベルなどを設定します。(『5.9.2 イベント通知』参照) |
| Turn Off Audible Alarms | 本製品に搭載されているブザーを停止します。(『5.8.6 音声アラーム』参照) |
| Communications | |
| Make Connection | ネットワーク経由で Storage Manager を実行します。(『5.10.3 サーバとクライアントの接続』参照) |
| Disconnect | リモート接続を解除します。(『5.10.3 サーバとクライアントの接続』参照) |

**※1：Linux** では表示されません。

## 5.4　Logical Configuration View

Logical Configuration View ウィンドウの右側には、アレイコントローラに接続されているすべての機器が表示されます。ウィンドウの左側には、各機器に対応する論理ドライブの情報が表示されます。



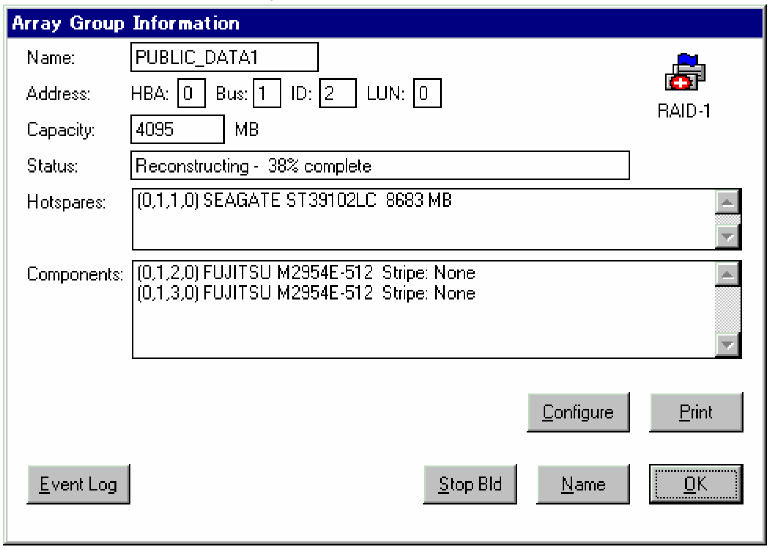

ここでは、以下の機能が使用できます。

| ボタン | 機能 |
|---|---|
| Switch View | Physical Configuration View ウィンドウと Logical Configuration View ウィンドウを切り替えることができます。 |
| Create Array Group | ディスクアレイを作成します。(『5.6.1 アレイグループの作成』参照) |
| Expand Array Group **※1** | ディスクアレイの容量を拡張します。(『5.6.3 容量の拡張』参照) |
| Delete Array Group | ディスクアレイを削除します。(『5.6.2 アレイグループの削除』参照) |
| Print | 構成情報を印刷します。 |

**※1：Linux では「Expand Array Group」ボタンは表示されません。**

### 5.5.2 アレイに関する情報

Logical Configuration View ウィンドウでアレイグループのアイコンをダブルクリックすると、Array Group Information ウィンドウが表示されます。マルチレベル RAID の構成要素であるアレイの Information ウィンドウを表示するには、それらのアレイのアイコンをダブルクリックします。

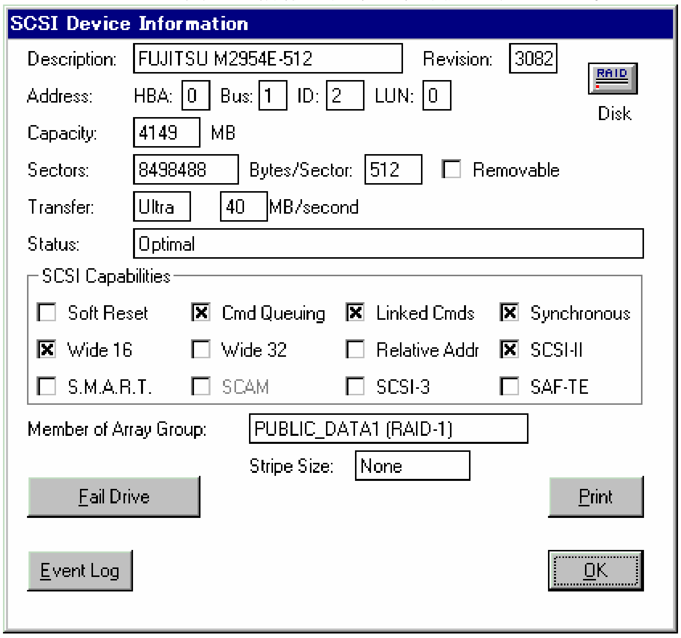



アレイに対し、以下のコマンドを実行することができます。なお、アレイの現在の構成や状態により、表示されるボタンが異なります。

| ボタン | 機能 |
|---|---|
| Configure | 設定確認および設定変更を行います。(『5.8.1 Host Bus Adapter の構成』参照) |
| Event Log | 発生したイベント一覧を表示します。(『5.9.1 イベントロギング』参照) |
| Verify | アレイグループのベリファイを実行します。(『5.6.5 ベリファイ』参照) |
| Name | アレイグループに名前を付けます。(『5.6.6 アレイグループの命名』参照) |
| Rebuild | アレイのリビルドを実行します。<br>故障したハードディスクを含む冗長アレイで、ホットスペアがない場合に表示されます。(『5.6.4 アレイのリビルド』参照) |
| Build | 初期化待機中のアレイに対し、初期化を実行します。<br>初期化待機中のアレイの場合に表示されます。 |
| Stop Bld | アレイの初期化またはリビルドを中断します。<br>初期化中、リビルド中のアレイの場合に表示されます。 |
| Stop Vfy | ベリファイを中断します。<br>ベリファイを実行しているアレイの場合に表示されます。 |
| Print | 表示されている情報を印刷します。 |
| OK | ウィンドウを閉じます。 |
| I/O Stats | I/O 統計情報を表示します。(『5.8.8 I/O 統計』参照) |
| Segments | 外付けデバイスの情報を表示します。 |

## 5.5.3 SCSI 機器に関する情報

ハードディスクや SAF-TE に関する情報の表示や、設定を行います。




ハードディスクに対し、以下のコマンドを実行することができます。なお、ハードディスクの構成や状態により、表示されるボタンが異なります。

| ボタン | 機能 |
|---|---|
| Configure | キャッシュの設定確認および設定変更を行います。(『5.8.5 アレイおよびハードディスクのキャッシュ設定』参照) |
| Event Log | 発生したイベント一覧を表示します。(『5.9.1 イベントロギング』参照) |
| I/O Stats | I/O 統計情報を表示します。(『5.8.8 I/O 統計』参照) |
| Format | ハードディスクをローレベルフォーマットします。(『5.7.3 ハードディスクのローレベルフォーマット』参照) |
| Make Hotspare | ホットスペアを設定します。(『5.7.1 ホットスペア』参照) |
| Remove Hotspare | ホットスペアを解除します。(『5.7.1 ホットスペア』参照) |
| Redirect | ハードディスクの Bus/ID のリダイレクトを行います。(『5.7.2 リダイレクト』参照) |
| Fail Drive ※1 | アレイを構成するハードディスクを強制的に切り離します。 |
| Print | 表示されている情報を印刷します。 |
| OK | ウィンドウを閉じます。 |
| Configure JBOD | JBOD を設定します。(『5.7.5 JBOD』参照) |

**※1：「Fail Drive」ボタンは担当保守員に指示されるような特別な場合以外は、使用しないでください。**

# 5.6　アレイに関する操作

## 5.6.3　容量の拡張(エクスパンド)

システム稼動中に、RAID 0 アレイまたは RAID 5 アレイに 1 台または複数のハードディスクを追加して、ストレージ容量を増やすことができます。ハードディスクが追加されると、コントローラはデータをアレイに配置し直します。このとき、LSU の最後に空き容量が追加され、Windows NT または Windows 2000 で認識される論理ドライブのサイズが増えます。
容量を拡張した後、Windows NT4.0 または Windows 2000 のディスクアドミニストレータを使用してアレイのボリュームセットに空き容量を追加し、システムをシャットダウンして再起動します。

**＊ 容量の拡張は、NTFS を使用する Windows NT4.0 または Windows 2000 で動作するアレイに対してのみ使用できます。Windows の FAT および Netware、Linux では使用できません。**

# 5.7　ハードディスクに関する操作

## 5.7.5　JBOD (Just Bunch of Disks)

**本製品では、本機能はサポートしておりません。**

JBOD はディスクの容量が異なる場合でも容量を無駄にすることなく単一の仮想ディスクを作成することができます。
RAID0 に似ていますが JBOD はパリティなどの冗長化コードがないため耐障害性に乏しく、性能面においても基本的に１台ずつ読み書きするため向上は望めません。

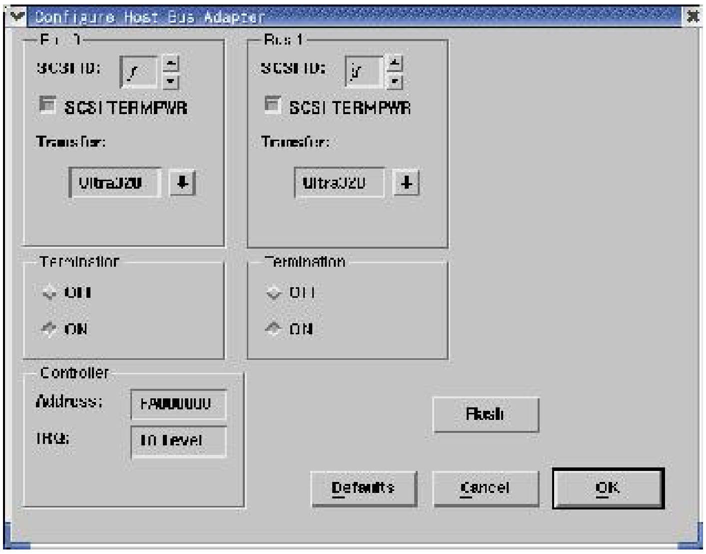
JBOD の設定および解除は、SCSI Device Information ウィンドウから実行することができます。

| ボタン | 機能 |
|---|---|
| Configure JBOD | ハードディスクを JBOD に設定する。 |
| Unconfigure JBOD | 既存の JBOD を解除する。 |

## 5.8　その他の操作

### 5.8.1　Host Bus Adapter の構成

アレイコントローラのハードウェアパラメータを変更するには、Host Bus Adapter Info ウィンドウの「Configure」ボタンをクリックします。



ここでは、以下の機能が使用できます。

**※ 機能の設定は変更しないでください。**

| 項目 | 機能 |
|---|---|
| Flash | コントローラのファームウェアとBIOSを更新するための Flash Configuration ダイアログボックスを表示します。(『5.8.2 フラッシュの構成』参照) |
| Caching **※1** | コントローラのキャッシュパラメータを選択します。(『5.8.4 Windows NT/2000 のコントローラキャッシュの設定』) |
| Defaults | コントローラの設定を初期値に戻します。 |
| Cancel | 変更を取り消し、元のウィンドウに戻ります。 |
| SCSI ID | コントローラの SCSI ID です。工場出荷時には 7 に設定されています。この設定は、変更しないでください。 |
| SCSI TERMPWR | 工場出荷時にはSCSIケーブルのTERMPWRラインを通じて終端電力を供給する設定になっています。この設定は変更しないでください。 |
| Transfer | 最大 SCSI 転送速度です。アレイコントローラは、電源投入時またはリセット時に、各 SCSI 機器と自動的にネゴシエートし、最大 SCSI 転送速度を設定します。工場出荷時には Ultra3 に設定されています。この設定は変更しないでください。 |
| Termination | このパラメータは、コントローラの SCSI ターミネーションを設定します。初期値は Auto です。この設定は変更しないでください。 |
| Address、IRQ | ホストBIOSによって割り当てられたコントローラのメモリアドレスと IRQ の値が表示されます。これらの値は変更できません。 |

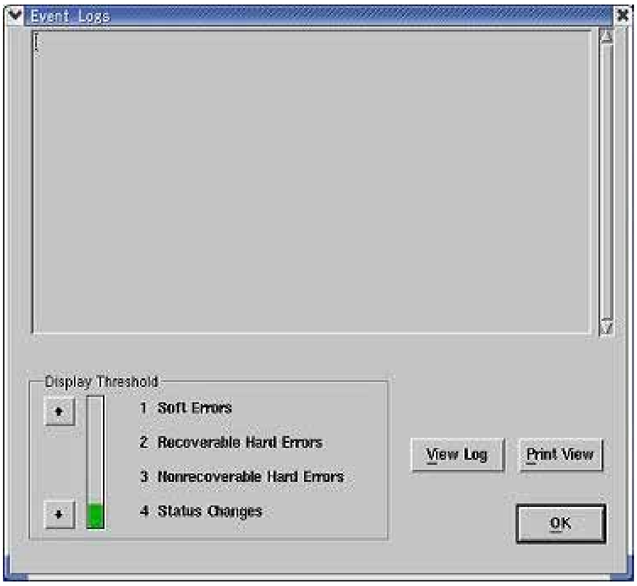
**※1：Linux では「Caching」ボタンは表示されません。**

## 5.9　イベント

### 5.9.1　イベントロギング

**本製品では、本機能はサポートしておりません。**

イベントログの内容を表示するには、コントローラ、ハードディスクまたはアレイの Information ウィンドウの「Event Log」をクリックします。Event Logs ウィンドウが表示され、特定レベル以上(初期値はレベル 4)のイベントのみ表示されます。

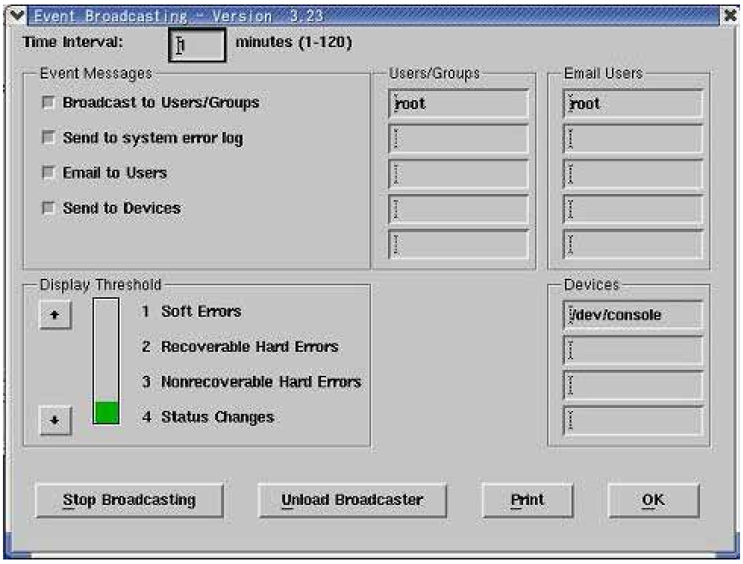



| ボタン | 機能 |
|---|---|
| ↑↓ | Display Threshold のレベルを調整できます。 |
| View Log | 選択したレベルのイベントメッセージを表示できます。 |
| Print **※1** | イベントログ一覧に現在表示されているイベントメッセージを印刷できます。特定のメッセージを印刷する場合は、そのメッセージが表示されるまで一覧をスクロールさせてから、「Print」ボタンをクリックします。 |

**※1：Linux** では「**Print View**」と表示されます。

### 5.9.2　イベント通知

Broadcaster を使用すると、Storage Manager を使用してイベントメッセージを電子メールでユーザ、グループおよび機器に送信することができます。また、アプリケーションログや Storage Manager のログファイルに保存することができます。「Options」メニューから「Event Broadcast Control」を選択すると、Event Broadcasting ダイアログボックスが表示されます。Event Broadcasting ダイアログボックスのオプションは、お使いのオペレーティングシステムによって異なる場合があります。



ここでは、以下のような機能が使用できます。

| 項目 | 機能 |
|---|---|
| Stop Broadcasting | 指定された場所またはアドレスへのイベントメッセージの送信を中止します。 |
| Start Broadcasting | 指定された場所またはアドレスへのイベントメッセージの送信を開始します。 |
| Unload Broadcaster | Broadcaster サービスを削除します。 |
| Time Interval | キャッシュが搭載されたすべてのコントローラのイベントログを Broadcaster が読み取る時間間隔を指定します。イベントメッセージが新しく生成されると、Display Threshold の設定に従って、指定された各宛先に通知されます。 |
| Broadcast to Computer(s) **※1** | イベントメッセージを Computer Names 一覧の各システムに送信する場合は、このオプションを有効にします。 |
| Send to system error log | システムへエラーログを通知します。 |
| Local Desktop Message **※2** | イベントメッセージをローカル システムのデスクトップに表示させる場合は、このオプションを有効にします。 |
| Email to Users | イベントメッセージを Email Users 一覧の各電子メールアドレスにメール送信する場合は、このオプションを有効にします。 |
| Log to Event Viewer **※2** | イベントメッセージが Windows NT/2000 のイベントログに記録します。このオプションは必ず有効にしてください。 |
| Event Logs **※2** | イベントメッセージをログファイルに記録します。このオプションは必ず有効にしてください。 |
| Computer Names/Email Users **※3** | コンピュータシステムや電子メールアドレスを指定します。 |
| Display Threshold | 矢印ボタンをクリックし、レポートされるイベントのレベルを設定するしきい値にインジケータを合わせます。選択された値と同レベルの、すべてのイベントのメッセージが通知されます。 |

**※1：Linux では「Broadcast to Users/Groups」と表示されます。**
**※2：Linux では表示されません。**
**※3：Linux では Users/Groups,Email Users,Devices と表示されます。**